

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市都市計画審議会小委員会(第7回)				
事務局 (担当課)		まちづくり計画部 都市計画課 電話042-769-8247(直通)				
開催日時		平成30年12月25日(火) 午後1時30分~15時30分				
開催場所		相模原市役所本館2階第1特別会議室				
出席者	委員	8人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	13人(都市建設局長、都市計画課長、他11人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の策定について (1) 検討手順の確認 (2) 都市計画マスタープラン全体構想骨子案 (3) 立地適正化計画骨子案				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員長の発言、 は委員の発言、 は事務局の発言)

1 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の策定について

(1) 検討手順の確認

(2) 都市計画マスタープラン全体構想骨子案

事務局から資料説明を行った後、質疑を行った。

都市計画マスタープランの本日の議論のポイントとして、3つの視点における将来都市構造が分かりやすく整理されているか、まちのイメージについて市民目線に立ったライフスタイルとして過不足がないか、などを中心にご確認願いたい。

○豊かな暮らしの実現における周辺都市との連携について、町田市内の多摩境駅周辺は橋本の生活圏となっており、市外ではあるが、町田市民の目線からの整理も望まれる。

相模原市の発展において、横浜・川崎方面とのつながりは重要であり、具体的にはJR横浜線の通勤時間帯の本数増便などは非常に効果が期待できる。

なお、まちのイメージについては、他都市から来訪する人のイメージが示されると現況にも近くなり、広域連携の意味がより伝わる。

○豊かな暮らしの実現における生活ネットワークは、集落と生活拠点間における路線バスや乗合タクシーなどの交通体系の維持を示すうえで、実態との整合を確認する必要がある。

法政大学の学生は、一人暮らしする場所として3つの最寄り駅がある中、家賃や利便性などで選択しており、拠点間競争という視点において橋本駅周辺の魅力を高めることで、圏域をより広範囲にすることが可能である。

集落から拠点に向かっての交通体系は、何らかの方法で維持していくことが重要であることから、構造図上にもネットワークを図示しているところである。

○エリア同士が補完していく関係を構築していくことが重要である。町田市はモノレールの延伸構想があるため、相模原市の小田急多摩線延伸構想と整合を図っていく必要がある。魅力のある仕掛けで相乗効果を創出し、人を呼び込む都市づくりが求められる。

○農地は都市部にもあり、田園住居地域が創設されたことを踏まえ、市街地における農地の維持・保全を考える必要がある。中心市街地や地域拠点といった拠点の周辺に緑の拠点があることで住み良い環境をつくり、都市全体としての魅力づくりにつながる。

審 議 経 過

○都市づくりにおいて、インバウンドの視点が必要であり、魅力ある施設づくりとともに、案内サインの多言語化などの人を呼び込む仕掛けに取り組む必要がある。また、来訪者のみならず、移住者も今後は視野に入れる必要がある。

○自然環境との共生における自然活用による交流は重要な視点である。都市部は、今後も人口が維持される中、公園や緑地の維持の方向性が定量的に示されると分かりやすい。Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の推進について、神奈川県では積極的に取り組んでいる。相模原においても水源のまちとして、そうした観点を絡めていくことも考えられる。

○まちのイメージについて、ライフスタイルのほか、定量的に目指す方向性を示すことが考えられる。

また、JR横浜線は、横浜・川崎方面とのつながりもあることから、軸としての重要性をより明確に表現することが必要である。

観光や農業に関する具体的な内容は、各部門別計画でお示しする考え方である。

なお、将来都市構造の軸については、考えられる要素を幅広く盛り込んでいることで分かりづらい面がある為、都市計画マスタープランの都市構造として改めて整理する必要がある。

○食・職・住などの面で、物理的につながっている都市もあれば、つながることで価値が生まれる都市もあり、定量的な根拠を押さえつつ、本市が目指すべき連携のあり方を整理する必要がある。

（３） 立地適正化計画骨子案

事務局から資料説明を行った後、質疑を行った。

○コンビニエンスストアは、通信網を含めて拠点化に必要な機能を持っている施設だが、一方で採算性が重要視されるため、都心部でも再編されている。コンビニエンスストアと宅配が、他サービスを支えるインフラになっているため、立地適正化計画を検討する上で、大手コンビニが相模原市をどう考えているのか知っておいた方が良いのではないかと。

○これまで議論してきた内容について適切にまとめられているが、もう少し前向きな書きぶりをして良い。例えば、財政面の立地適正化の必要性は、「成長の拠点をつくる必要がある」といった表現も有り得る。拠点化は、他を切り捨てるのではなく、他を支えるための稼ぐ場をつくり、その恩恵を全体で享受するという捉え方をした方が良い。

見附市の立地適正化計画は、「歩いて暮らせる健康なまち」という目指す都市像が前面に出ており、その維持のために都市機能を集約する必要があるといった構成になっている。戦略的な中心地をつくり、その周辺は維持するゾーンにする内容になっており、相模原市と構造が似ており、前向きな計画としてとりまとめられている。相模原市はより可能性を有しており、メリハリをつけた計画としたら良いと考える。

地域課題を産業化し、再生を図るような視点は重要である。

審 議 経 過

○健康な状態で高齢化社会を迎えられることが一番よく、目的を持った生活ができる場を提供していくことが重要である。そのような場所づくりのために必要な施策を検討していただきたい。

○コンビニエンスストアが多く立地してきており、地元の商店街に影響が出ている。そのような中で、商店街は地域に密着した空間であるべきという考え方で、コミュニティの場をつくり、多くの方に来てもらう取組を行っている。また、配達サービスなども行うことで機能を維持しようと取組んでいる。非常に厳しい環境下だが、コンビニエンスストアとうまく共存共栄できる商店街づくりを行っている。

○柔軟性のある都市構造形成は非常に重要であると考え。都市機能や交通手段の柔軟性に関しては書かれているが、災害については記述がない。想定外の災害が発生した際にも迅速に対応できるといった要素が含まれていると良い。

○立地適正化計画は福祉の計画であると捉えている。福祉が整っていないと安心して住み続けられる環境にならないと思う。福祉関連の計画があると思うが、それらを都市計画の面から担保することが必要だと思う。高齢者だけでなく、子育て世代も含めた人たちが、人生を送る上で最も重要な部分が全て取り込んでいる計画になると良い。このような部分が少し不足している気がする。エリアごとの考えが含まれていないと、市民が読んだ際に納得できないと思う。

今後、高齢化が進む中で、サービス付き高齢者住宅や、元気なうちに子供たちの近くに住むといった暮らし方もあるようなので、そういったことも可能になる取組を盛り込んでもらいたい。安心感を持たれるような計画にしてほしい。

見附市は、全ての取組が健康につながっているため分かりやすいが、本市は課題が多様であるため、全てに対応するように書いてあり、伝わりきれていない状況にあるのだと思う。

立地適正化計画は、都市計画マスタープランの要素に戦略的な要素も加わったものと言われており、行政として立地をしっかりと押さえながら、行政・市民・事業者の3者が同じ方向を向いて取り組んでいこうという運動になる。課題は運動の一番のモチベーションであり、共有できるよう、総花的な表現にならない工夫が必要と考える。

また、人口減少や高齢化が起きてしまうことは避けられないため、どこに焦点をあてて課題に対応していくべきかを議論していただけるとありがたい。

以 上

相模原市都市計画審議会小委員会(第7回)委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	飯島 泰裕	青山学院大学 社会情報学部 社会情報学科 教授		出席
2	伊藤 彰英	麻布大学 生命・環境科学部 環境科学科 教授		出席
3	加藤 仁美	東海大学 工学部 建築学科 教授	副委員長	出席
4	西浦 定継	明星大学 理工学部 総合理工学科 教授	委員長	出席
5	保井 美樹	法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 教授		出席
6	高橋 三行	相模原市農業委員会 会長		出席
7	落合 幸男	相模原市農業協同組合専務理事		欠席
8	座間 進	相模原商工会議所専務理事		出席
9	大塚 亮一	公益社団法人神奈川県 宅地建物取引業協会 副会長		出席
10	澤岡 詩野	ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 主任研究員		欠席
11	中西 泰子	相模女子大学 人間社会学部 社会マネジメント学科 准教授		欠席